

Ocean Style

オーシャンスタイル・パーフェクトボート

# Perfect BOAT

すべてのボートファンに贈る、海とボートのスタイルマガジン

FEB. 2004

オーシャンスタイル・パーフェクトボート  
2月号 第2巻第2号 通巻7号  
平成16年2月1日発行 毎月1回1日発行

特別定価 1500円

2  
エントリーボートから  
ビッグボートまで  
すべてがわかる  
ボート専門誌

JARRETT BAY 58/55

PREVIEW  
FERRETT

OCEAN ALEXANDER 78/74  
SEA RAY 240/BLUE PETER 320  
喜多嶋隆 PHOTO ESSAY

イラストレーター 鈴木英人 / S.ケリガン  
フォトグラファー  
ピンナップポスター

マイボート探しの支援ツール、お聞なボート検索サ  
<http://boat-sensor.jp>

IMPRESSION  
MAGNUM 60/56



P21  
**Cutting Edge**

P22-25  
**pick up**

P26-45  
**PREMIUM BOAT IMPRESSION**

**Magic Carpet Ride**  
**Jarrett Bay**

P28-37  
**58 "JT"**

P38-45  
**55 "Micabe"**  
**New Model**

P47-57  
**Ferretti group #2**

**FERRETTI YACHTS**

P49  
**Interview**

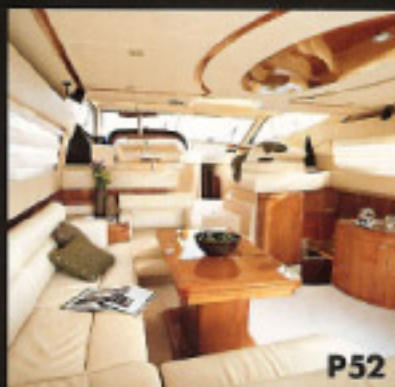
**フルビオ・ドゥディッチ/フェレッチェ CEO**

P50-51  
**Shipyards**

P52-57  
**590**  
**Line up**



P38



P52



P60

P58-75  
**PREMIUM BOAT IMPRESSION**  
**ACCELATION BULLETS!**

**MAGNUM**

P60-67  
**60**

P68-75  
**56**  
**History**

P77-87  
**BIG WAVE**  
**OCEAN ALEXANDER**

P78-81  
**78 MOTOR YACHT**

P82-87  
**64 PILOT HOUSE**  
**Interview**



P82

**THE SHOT #09**

断るまではおとなしかったブルーマリン。大物ではなかったが、忘れられないシーンを覚えてくれた。

**Profile: スコット・クリガン**

フロリダ在住の写真家。20年におよぶデッキハンドの経験を活かし、独自の視点で作家活動続ける。ビッグゲームをはじめあらゆる釣りやボートを題材にした作品はMarlin Magazine, Sports Fishing Magazine, Boating Magazine等の雑誌、Bertram, Hatterasの広告など、多くの媒体で採用されている。

[www.scotlkerrigan.com](http://www.scotlkerrigan.com)





# Magic Carpet Ride

荒海を往魔法の絨毯



優雅・美麗。ノースカロライナのクラシックなフォルムを持つジャレットベイ。  
その美しさは東海岸のスポーツフィッシャーマンの中でも群を抜く。  
カロライナフレア、タンブルフォーム、シックなウッドトリム。どの角度から見てもこのボートは美しい。  
フォルム、走破性、インテリア、居住性、すべてが初めての体験は、  
感動を呼び起こす興奮に満ちている。

撮影◎山田真人、編集部  
Photographed by Makoto Yamada, Perfect BOAT Magazine

Special Thanks to  
JARRETT BAY BOAT WORKS

# J A R R E T T B A Y



hull #28

# 58

## "JT"



### 空飛ぶような カロライナボートの 浮遊感に酔う

伝統が、機軸に裏打ちされた美しいボートを生み出した。その美しいものの類まれな本領はフォートローダーデール沖の荒れた海で発揮された。ハルナンバー28。58フィートのスポーツフィッシャーマンが舞う。海を知り尽くした男達の夢の結晶だ。[Let Us Build Your Dream] ジャレットベイのプライドがそこにある。

文◎山崎憲治  
Written by Kanji Yamazaki



PREMIUM BOAT IMPRESSION







アメリカ東海岸、ノースカロライナのボートにはいつも伝説がつきまとう。内海のPAMLICO SOUND からハトラス岬沖の激しいオレゴンインレットを抜けて大西洋に出る。どんなに海が荒れようとも無事に帰還できるボート、それがノースカロライナのフネが持つ伝説。確かに魅力溢れるボートが多い。

Albemarle, Carolina Classic, Davis、そしてあのHatteras……。中でもノースカロライナの伝説を色濃く残す、カスタムビルダーのボートがスポーツフィッシャーマンの心をとりえで離さない。艶やかなふくらみを持つアフトのタンブルフォームから、一気にパウトトップに伸びあがるシアライン。パウサイドからステムへの眼を見張るあの深く広く美しいカロライナ・フレア……。それはセクシーなまでに優美なフォルムを見せる。Sculley, Rose, Tillett, O'neal……。そのほとんどがオーク材やモミ材を主としたウッドハルを採用する。その仕上がりの美しさはノースカロライナの誇りとなっている。

ジャレットベイは、フロリダからもニューヨークからも、外洋を走らずに行けるインターコースタル・ウォーターウェイの中間点にあたるBeaufortのアダムス・クリークに拠点を置く。175エーカーのジャレットベイ・マリン・インダストリアル・パークには、ジャレットベイ・ボートワークとジャレットベイ・ヨットセールスを中心にマリン・ファシリティのすべてが揃っている。220トンのボートまで作業可能なリペア・エリア、カスタマイズのマリンインテリア・エリア、アウトリガー、ツナタワーなどの製作と組装のアルミニウム・ファブリケーション・エリア、エンジン・プロペラ等のマシン・エリア、ユーズドのブローケージ、マリン・ショップ&レストランエリア。目の前はまさしくオフショア、大西洋の冒険クルーズへの重要なサポートポイントになっている。

メンテナンスヤードに始まったジャレットベイが、その名を冠したスポーツフィッシャーマンを登場させたのわずか17年前の1986年だ。だが今やその名はノースカロライナを代表するカスタムボートビルダ



ーとして確固たるものとなった。38フィートから73フィートまでのスポーツフィッシャーマンを作り、現在も8艇を同時に建造中。49艇目の70フィッシャーに着手したという状態。確実にスポーツフィッシャー・ファンの心を掴んでいる。

我々にあずけられたのは、58スポーツフィッシャーマン。ロングノーズショートデッキの伝統的なフォルムとモダンさを兼ねそなえた優雅なスタイルが見る者の心を奪う。デザイナーはGlen Haight。聖水下のブルーとアイスクリームのような柔らかさを思わせるハルの白さ、チークのウッドトリムが見せるブラウン。その色調一つとっても清潔感と気品、さらには威厳と貴族性すら感じるのだ。それは芸術品と言っても良い程の美しさだ。

ハルナンバー28、"JT"と名付けられたこれはオーナー艇。2000年8月に進水し、CAT3412E、1400hp×2のエンジンアワーは400時間。今まさに絶好調のフネだ。ハルはサイドにオーク材を、ボトムにモミ材



ふくよかなタンブルフォーム。異様なフレアにノースカロライナの伝統の証を見る。いっさいのハンドレール、パイルピットはない。キヤットワークは乗船の広さを保つ。

チークトリム上にロープガードが貼られる。もちろんデッキの上はノンスリップ加工が施されている。



ツナタワー上のヘルムはスキッパーの仕事場。シングルレバーコントロールとコンパスのみ。



を3層重ね、その外側をFRPでサンドウィッチするコールド・モールド・ウッド方式だ。強固なストリンガー、徹底的に応力計算された構造部材が神経質なまでに張り込められる。エンジンマウントのケーシングはアルミニウム部材が使われる。軽さと高剛性の両立を主眼とする構造だ。フォワードで36度、ミジップで24度のモデルートVは、ステムから比較的深いキールを持ち、10度という浅いデッドライズではほぼフラットに終息する。どこかDavisに似た船底形状を持つ。

ジャレットベイの船に立つとその艶やかさに、胸が高鳴る。ひとつひとつの造形が美しく気品に満ちているからだ。コクピットに立つ。コーミングのチーク材、リギングステーションもオイルドコートの鏡面仕上げを施したチーク。ボンバネット製のファイティングチェア。床はもちろんチーク張り。コクピットの仕上げのすべてが上質の極みを見せる。極め付けのスポーツフィッシャーマンである証だ。スターボードサイドに用意されるFBへのラダー、ステップはノンスリップ加工されたこちらもチーク。

FBのヘルムステーションはポップアップ式のコンソールを持つ。ヘルムボットのチークが美しい。シングルレベルコントロールのスロットル。バーンピーススタイルだ。ヘルムシートはボンバネット製。58フィートにしては広さを感じさせないが、コンソール前に用意されるLシェイプソファやタックルロッカーなど装備は充分だ。サイドフォルムが表わしている低重心の印象は、コンパクトで必要充分なFBにある。

ボートショーが終わったフォートローダーデール沖は、まさしく時化状態。気温24度、東の風15m、T-Storm。水路を抜けるといきなりの大西洋だ。波は2~3m。1500rpm/18ノット、荒れる海だ。この環境の中でこそスポーツフィッシャーマンの本領がわかる。

オフショアへのコリドーを抜け出た瞬間に三角波に襲われる。パウトップが15ノットで波に突っ込む。思わず身構えるが、ゆるやかなピッチングで事が済む。フレア側面に波がはじき飛ぶが、FBはドライだ。空も海もフロリダブルーとはほど遠く、鈍色。だがこのジャレットベイに乗る快感はすべてをファン・トゥ・ライドに変えてくれる。

全長17.78m、全幅5.33m、26tの"JT"。ヘルムを変えて、瞬時に感じるのは軽さだ。CAT1400hpのピックアップの良さ、ハルの波あた







広々としたサロンは豪華な演出が施されている。アップギャレーとダイネッティを持ち、ゆとりの空間がここにはある。



黒大理石の貼られたギャレー。もちろんすべてフル装備。ロングクルーズやトーナメント、ギャレーの使い勝手が快適を決めるのだ。



シックなマスタースイート。ロングクルーズに耐えるべく、クローゼットやTV&DVDなど、すべてが備え付けられている。



バウに設置されるゲストルーム。オーナーズルームと同様のクオリティを持つ。ファイトで疲れた身体を癒す空間だ。

コンパクトなゲストスイート。こちらも快適な睡眠が約束される2段ベッドが用意されている。



2スリットにヘッド&シャワーを持つ。湯水は772L。



ウォッシュ&ドライは必需品。毎日を快適に過ごす。これが快適の証。





チークのヘルムボットが美しい。バームビーチスタイルのシングルバー、トーナメントフィッシャーの固定だ。



リビングステーションはオイルフィニッシュのチーク張り。トランサムコーミングにはライブエド、アイスボックス、ストレージが設置されている。



エンジンメーターはアナログ。バックアップはデジタルでコンソール上に。コンソールはポップアップ式。



チークトリムを持つ1等シェイプソファを持つ。スターボードサイドには真中合わせに2艘のイスがある。もちろん冷蔵庫も完備。

CAT3412E, 1400hp×2の駆するエンジンルーム。室内は決して高くはないが空間性は良い。



りの優しさと柔らかさ。低重心で浮力を感じさせる走りがある。荒れた海での安定感。これには驚きだ。ひと波ひと波、波を切り分け、不安定な挙動ひとつないのだ。波間を見ながらステアリングを切り込み転舵する。切り込んだだけ反応するインサイドバンク。リニアな感覚、素直だ。

横波を受ける。一瞬のヒール。戻りが素早い。追い波の状態での走行。2000rpm/24ノット。2300rpm/30ノット。追い波とはいえこの荒れた海だ。大きな波に追いつく。一瞬の抵抗、ステムで切り抜いた波をチェーンが叩き落とし、フレアが残りのスプレーを左右に振り落とす。直進性に変化はない。再び転舵する。向かい波だ。2300rpm/28ノット。ひと波ごとに波をいなしめくその走破感覚は小気味良い。大きなうねりが襲う。スロットルを少し戻す。バウが波先に突っ込む。フレアがすべての波を振り分け、バウが浮きあがる。スロットルを全開。次の波を切り分け前進のトルクに微塵の変化もない。1度もたたく事もなく、すべてがソフトだ。ライブウィッチに負けず劣らずの至極のライド感がある。

「まるで空飛ぶじゅうたんです」サロンからFBに登ってきて編集スタッフが言う。確かに身体に感じる動的ショックや揺れや振動、そのすべてが初めて感じる柔らかさや心地良さを伝えてくるのだ。

疲れない。これは荒天時やロングクルーズには強力な武器となる。これこそハトラス岬沖の荒れた海況を越えて漁に出たノースカロライナのフネ造りの伝統が築きあげた技なのだ。それはジャレットベイのどこを見てもわかる。とことんまで磨き上げられ、洗練された意匠を待っている。

サロンに入れば、チェリーウッドを中心に重厚感溢れる雰囲気包まれる。広々としたサロンには安らぎがある。華々しさを抑えた見え感に本物の高級が漂っているのだ。遮音材の効いたサロンは想像以上に静かだ。荒れた海を行く中で、復元力の強い安定感のある走りは、FBよりもこのサロン内の方が感じやすい。ゆるやかなビッチング、そのひとつひとつが心地良くすら思えてくるのだ。

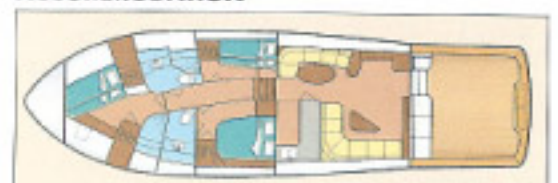
3ステイトルームをもつこの58スポーツフィッシャー。オーナールームを中心にどのステイトルームもチーク材は鏡面仕上げを避け、実に上質な色調に仕立てあげられている。静かでおやかな人生の

ひとときを過ごす部屋。それがテーマなのだ。

シートライアルを終え、「JT」から下船した時、なぜかもう一度振りがえってみたいくなった。崖岸し、フォートローダーデールからノースカロライナへ、荒れた海を回航するキャプテンと1人の年輩いたクルー。手を振って再び別れを告げる。

改めて見直すそのフォルム、ほればれとする美しさだ。それはまさしく伝統が産み出した芸術作品。こんなフネそうあるものではない。

#### ACCOMMODATION



#### SPECIFICATIONS..... JARRETT BAY 58

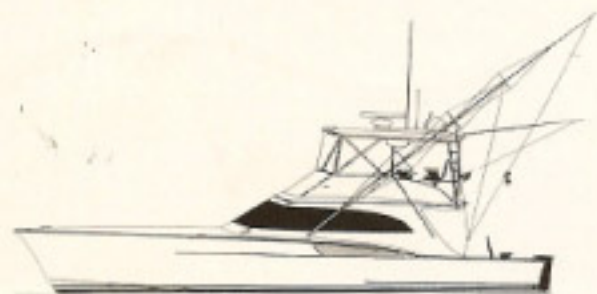
|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 全長      | 17.78m                           |
| 全幅      | 5.33m                            |
| 喫水      | 1.44m                            |
| 重量      | 26,310kg                         |
| 燃料タンク容量 | 4,573L                           |
| 清水タンク容量 | 772L                             |
| エンジン    | 2×CAT 3412E                      |
| 最高出力    | 2×1400馬力                         |
| 問い合わせ先  | ヤマハボート・テイングシステム TEL:045-775-1150 |



hull #42

# 55

## "Micabe"



### 熱意と情熱、そして愛情が 生み出した 優しく崇高なウッドボート

アメリカの人達は本当にボートが好きだ。その扱いは家族並、とは言わないがそれに近いものがある。それはネーミングにも表れる。"Micabe"と名づけられたこのジャレットベイ55もまた、オーナーが子供の頭文字を組み合わせたものだ。愛するボートが荒波を越えた時、彼が嬉しそうに言った「This is Carolina Boat!」

文◎大倉 力  
Written by Eiki Okura







## このまま家の前まで乗って帰るよ、 ワイフとふたりで

壮年のご夫妻は素敵なカップルである。荒天を楽しむように操船するオーナー氏は常にワイフを気遣い声を掛ける「ハニー！ アーユーOK?」。オーナーの深い愛情はボートに対しても表れる。何よりも自分のボートに誇りを持っている。そして、いつでも美しく保っている。ジャレットベイのようなボートは愛情とお金、そして時間を注ぎ込まなければ維持することすら難しい。日本でよく質問される事がある「ウッドボートは日本でどうだろう?」と。日本と米国でボータング環境

に大きな違いがあるのは事実だ。しかし、それ以上に違うのはボートへの愛着や愛情である。日本でウッドボートを維持するのはたしかに難しいことだが、普通のFRP製ボートを美しく維持できないオーナーは絶対に止めたほうがよい。例えば、ハッチやドアの縁までいつでも気を使って、キレイにしていられるのか? ということ。マイアミのマリーナでベテランクルーが新入りのボートボーイに指導している場面を見たことがある。その細心の気配りに目の覚める想いがした。ボート文化の違いとも言える。ウッドボートに関しては様々な意見がある。「湿度が違うから難しい」「問題ないよ、手間と時間をかければ」云々。どの意見も正しいと思うが、熱意と情熱、時間とお金、ボートに対す

る正しい理解、それだけ揃えばウッドボートも日本で乗れると思う。ジャレットベイはそういうオーナーに持って欲しい素晴らしい作品だ。

樹木が人間に優しいのは森林や自然の状態だけではないようだ。製材されボートとなっても人間に自然の優しさを与えてくれる。ハル#42「Micabe」も他のジャレットベイ同様、オーク材とモミ材を使い分けたFRPサンドウィッチ工法であるコールド・モールド・ウッド方式で造られている。基本的にはボトムに多層のモミ材、サイドハルその他にはオーク材を使用する。エンジンベツ等、高い剛性が必要とされる部分ではアルミ合金などが必要に応じて使い分けられる。見る者を魅了する美しいカロライナプレアールをもつハルは、人気の「ファイテ



シンプルで高級さを感じさせるアッパー・コックピット。広く動きやすいが機内は狭いのが残念なこと。横断は良いのだが……。



美しく輝くヘルム・ボンドが印象的なヘルムステーション。メーター類は視認性が良く、バームビーチスタイルのコントロールユニットも扱いやすい。



ジャレットベイの造りは伝統的だ。美しく、そして壊れない。エンクロージャーはフロントとサイドのみが一般的だ。

イング・レディ・イエロー」で彩られる。ボトム形状は伝統的なカロライナスタイル、バウの深いVからフラットに近いトランサムへとつながるモデルVボトムを採用。フォワード36度からトランサム・デットライズ10度まで自然なラインを描き変化する。イーストコースト・スタイルでバルビット類は一切無く、ガンネルを縁取るチークが美しく輝く。

ジャレットベイでは現在、38フィートから73フィートまで41艇の進水実績がある。この55フィートモデルはその中心的モデルでハル#42は最新モデルである。デッキは当然のようにチーク材が張られているが、そのチークもいたる所で表情を変えて使用されている。ボートとチーク材はどの時代であっても、簡単には切り離せない密接な関係





フォワードに位置するゲスト&クルーステートルーム。2段ベッドが用意された落ち着いた雰囲気のスペースだ。



メインサロンは豪華という言葉が良く似合う演出がなされる。仕上げの美しさは素晴らしい。



ボートサイドのミッドスペースに位置するマスターステートルーム。豪華なデコレーションは一切省かれている。

ギャレーはメインサロンのボート側に設置されるアップギャレータイプ。設備は充実だ。



マスターステイト専用のヘッドスペースは、船一室のホテトルで過ごしているような気配させる。



にある。ヘルムシートやファイティングチェアもチークを多用したボンパネット製が用いられ、樹の香りに包まれる極上の空間を演出する。こうして浮かんでいるジャレットベイ55に乗っているだけで至福の時を感じる。しかし、本当の至福の時はこの後、訪れた。

フライブリッジに上がってもそこが極上の空間であることに変わりはない。インパネには航海計器が整然と並び、美しいヘルムパッドがバームビーツスタイルのシングルアクションレバーとステアリングを包み込む。雰囲気は最高だ。エンクロージャはフロントとサイドだけを囲むスタイル。アメリカではフル・エンクロージャスタイルは殆ど見ない。フォートローダーデールのボートショー会場、パズルのようなブ

ースから数センチ単位のコントロールで何とか抜け出す。オフショアは相変わらず荒れ模様。風は10m前後、ブローで15m位は吹き、波は2~3m。58"JITと歩調を合わせるが、上下動を繰り返しながら突き進んでいる。回転を1,900rpmに上げる。エンジンの反応は良く、船体とのマッチングはとても良い。オーバーパワーでもアンダーパワーでもなくジャストフィットしている。GPSのデジタルメーターは23~24ノットを前後している。ウネリで上下動はあるが、身構えた瞬間「フワッ」と気が抜けたように柔らかにランディングするのだ。パネではなく水に支えられたベッドのように。ボトム形状の素晴らしさもあるのだろうが、樹木の柔軟性と浮力の高さがもたらす優しさだ。やはり樹木は





チークデッキの美しさを引き出すアフトデッキには、ホンパネット製ローリングチェアが並び、船へのラダー位置も工夫され、邪魔なものが一切ない。圧巻だ。



当然のようにフロントウィンドウはクロードスタイル。何も付けないのが船部の新感覚だ。



エンジンルームはそれほど広くはない。2基のDDC/M TU 8V2000 A90 900馬力ユニットとのマッチングは最高だ。

人間を優しく包み込む。根強いウッドボートファンが多いことが理解できる。追い波で全開、2,300rpm / 30 ノットオーバーをマークする。カロライナフレアが波を巻き落とすが、風でスプレーが舞い上がる。優しく良い走りだ。

外はそんな荒れ模様だが、重厚な雰囲気のカブリ内はエアコンディショニングが良く効き、落ち着き払っていた。防音にもかなり気を使っているのだろう。静粛性も高い。インテリアも仕上げも上質、熟練職人のみが成せる技だ。美しいシルエットが印象深いジェレットベイ55 "Micabe"、優しく崇高なボートである。

#### ACCOMMODATION



#### SPECIFICATIONS . . . . . JARRETT BAY 55

全長 16.91m  
全幅 5.23m  
喫水 1.44m  
重量 25,400kg  
燃料タンク容量 3,028L  
清水タンク容量 946.3L  
エンジン 2 × DDC / MTU 8V2000  
総出力 2 × 900馬力  
問い合わせ先 ヤマハボート・マーケティングシステム TEL: 045-775-1150

## New Model

小さな高級。どちらを選ぶ。  
センターコンソラーor  
ウォークアラウンド・エクスプレス

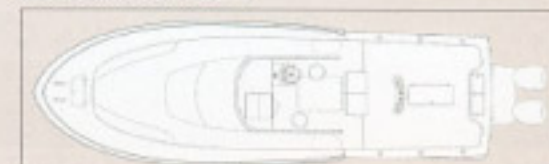


宝石のような美しさを見せる32スポーツフィッシャーマン。FRPハルだがクラシカルなフォルムに伝統の技が秘める。

現在進行中のニューモデルがジェレットベイ32だ。注目のハルはウッドではなく量産可能なFRP製。エンジンはアウトボード2基搭載。センターコンソラーモデルとウォークアラウンドのエクスプレスモデルの2タイプの仕様を持ち、もちろんカロライナフレア、タンブルブラットフォームに代表される伝統の技が随所に活かされている。

チークのトリムをコクピットに持つ32フィートのセミカスタム。それも上質極まりない仕上がりとなれば、ジェレットベイ・ファンならずとも気になるところだ。30から40フィート前後のウォークアラウンドやセンターコンソラーのマーケットが熱いのは事実。英国サンシーカーも東海岸のこのマーケットに37フッターで参入したばかり。ライボヴィッチも初のFRPハルの42ウォークアラウンドで量産体制に入った。新入のどのコンストラクターもこのマーケットが最もユーザー層が厚いことを知っていて、従来の他社メーカーのボートよりさらにアッパークラスのクオリティと仕上げを競っている。50フィッター以上のスポーツフィッシャーマンのマニユバビリティを持つダウンサイズモデル、当然のように期待は大きい。このジェレットベイ32、トップエンドのスピードは45ノット、クルーズスピード35ノット。使い勝手のいい、より多くのフィッシングスタイルを楽しむ小さなジェレットベイ。2004年のマイアミ・ボートショーで初披露予定だ。

#### ACCOMMODATION



#### SPECIFICATIONS . . . . . JARRETT BAY 58

全長 9.75m  
全幅 3.35m  
喫水 0.60m  
重量 約12,000kg  
燃料タンク容量 1,136L  
問い合わせ先 ヤマハボート・マーケティングシステム TEL: 045-775-1150

# Magic Carpet Ride

荒海を往く魔法の絨毯

# JARRETT BAY

